

【2023 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 作業療法学コース/作業療学科】

科目名		ナンバリング		区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
精神作業療法評価学演習				必修	2	2	前期
担当教員		研究室		電子メール ID		オフィスアワー	
小沢 健一 他		C305		k-ozawa		水曜日 10:30～12:00	
授業の目的・概要		精神機能作業療法において対象者と対象者を取り巻く環境の全体像を把握するための評価を実施できるよう、基本的知識・技術・態度について学修することが本演習の目的である。この科目は精神機能の評価を行って行く上での基本となり、今後は治療学へとつながっていく。観察・面接評価および各種検査の方法を学生同士で実施し必要な技術の修得を目指す。本科目は 2 コマ連続の計 30 回の授業で実施する。					
授業形式・方法		☒ 対面授業 ☐ 遠隔授業(双方向型) ☐ 遠隔授業(自主学习)		☒ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習 ☐ 実技	☐ PBL ☐ 反転授業 ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ その他 ()	☒ ディスカッション・ディベート ☐ 実習・フィールドワーク	
学習上の助言		精神医学・作業療法評価学において学修した内容を十分に理解した上で講義・演習を受けることが望ましい。授業は演習が中心となるため、事前に教科書を読むなど予習をしておくこと。					
教科書		標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 / 編：能登真一、山口昇、玉垣努、他 / 医学書院/2017					
参考書		精神障害と作業療法 新版 / 著：山根寛 / 三輪書店 / 2017					
外部教材		なし					
学生が達成すべき行動目標						関連卒業認定・学位授与方針	
①	精神機能評価の基礎的事項を説明することができる					OT (1) ～ (3)	
②	精神機能評価における観察・面接・検査法を説明できる					OT (1) ～ (3)	
③	精神疾患との関係性や回復状態に応じた評価を説明できる					OT (1) ～ (3)	
④	評価の結果を適切に解釈することができる					OT (1) ～ (3)	
⑤							
⑥							
授 業 計 画							
回	学習内容等			授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	高次脳機能障害に対する評価を学ぶ (注意・記憶)	[担当] ：小沢		講義・演習	事前に教科書 p439-466 の予習をする。講義終了後確認テストを行い、フィードバックをする。	1	
2	高次脳機能障害に対する評価を学ぶ (遂行機能・社会的行動障害)	[担当] ：小沢		講義・演習		1	
3	高次脳機能障害に対する評価を学ぶ (失語・失行)	[担当] ：小沢		講義・演習	事前に教科書 p439-466 の予習をする。講義終了後確認テストを行い、フィードバックをする。	1	
4	高次脳機能障害に対する評価を学ぶ (失認・半側空間無視)	[担当] ：小沢		講義・演習		1	
5	高齢期の精神・心理的特徴に関連した評価について学ぶ (意欲・抑うつ、廃用症候群など)	[担当] ：榎田		講義・演習	事前に教科書 p603-614、619 と配布資料を用いて予習する。演習・実技を行うなかで重要なポイントのフィードバックをする。	1	
6	高齢期の精神・心理的特徴に関連した評価について学ぶ (全般的な認知機能)	[担当] ：榎田		講義・演習		1	
7	高齢期の精神・心理的特徴に関連した評価について学ぶ(全般的な認知機能)	[担当] ：榎田		講義・演習	事前に教科書 p609-614 と配布資料を用いて予習する。演習・実技を行うなかで重要なポイントのフィードバックをする。	1	
8	高齢期の精神・心理的特徴に関連した評価について学ぶ (全般的な認知機能)	[担当] ：榎田		講義・演習		1	
9	認知症重症度、BPSD (行動・心理症状) 等の評価について学ぶ	[担当] ：榎田		講義・演習	事前に教科書 p615-620 と配布資料を用いて予習する。演習・実技を行うなかで重要なポイントのフィードバックをする。	1	
10	認知症重症度、 BPSD (行動・心理症状) 等の評価について学ぶ	[担当] ：榎田		講義・演習		1	
11	高齢期における ADL 等の諸活動に関連する評価について学ぶ	[担当] ：榎田		講義・演習	事前に教科書 p617-622 と配布資料を用いて予習する。演習・実技を行うなかで重要なポイントのフィードバックをする。	1	
12	高齢期における ADL 等の諸活動に関連する評価について学ぶ	[担当] ：榎田		講義・演習		1	
13	精神機能作業療法評価学の基礎を学ぶ	[担当] ：未定		講義	事前に教科書 p468-473 の予習をする。	1	
14	精神機能作業療法評価学の基礎を学ぶ	[担当] ：未定		演習		1	

【2023 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 作業療法学コース/作業療学科】

15	精神機能作業療法における情報収集を学ぶ	[担当] : 未定	講義	事前に教科書 p474-477 の予習 をする。	1		
16	精神機能作業療法における情報収集を学ぶ	[担当] : 未定	演習		1		
17	精神機能作業療法における観察法と面接法を学ぶ	[担当] : 未定	講義	事前に教科書 p478-485 の予習 をする。	1		
18	精神機能作業療法における観察法と面接法を学ぶ	[担当] : 未定	演習		1		
19	精神機能作業療法における検査法を学ぶ (社会生活機能評価 : LASMI、Rehab、GAF 等)	[担当] : 未定	講義・演習	事前に教科書 p486-497 の予習 をする。	1		
20	精神機能作業療法における検査法を学ぶ (精神症状評価尺度 : PANSS、SDS、HAM-A 等)	[担当] : 未定	講義・演習		1		
21	精神機能作業療法における検査法を学ぶ (パーソナリティ検査 : MPI、P-F スタディ等)	[担当] : 未定	講義・演習	事前に教科書 p486-497 の予習 をする。	1		
22	精神機能作業療法における検査法を学ぶ (認知行為構成検査 : 箱づくり法、BACS-J 等)	[担当] : 未定	講義・演習		1		
23	集団における評価を学ぶ	[担当] : 未定	講義	事前に教科書 p498-504 の予習 をする。	1		
24	集団における評価を学ぶ	[担当] : 未定	演習		1		
25	精神機能作業療法の実際を学ぶ	[担当] : 未定	講義	事前に教科書 p505-513 の予習 をする。	1		
26	精神機能作業療法の実際を学ぶ	[担当] : 未定	演習		1		
27	疾患別の評価事例を学ぶ (統合失調症)	[担当] : 未定	講義	事前に教科書 p514-520 の予習 をする。	1		
28	疾患別の評価事例を学ぶ (抑うつ障害および双極性障害)	[担当] : 未定	講義		1		
29	疾患別の評価事例を学ぶ (神経症性障害・パーソナリティ障害・摂食障害)	[担当] : 未定	講義	事前に教科書 p520-539 の予習 をする。	1		
30	疾患別の評価事例を学ぶ (薬物依存・ASD)	[担当] : 未定	講義		1		
試	定期試験						
達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		100	0	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	70	0	0	0	0	70
	思考・推論・創造する力	20	0	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	10	0	0	0	0	10
評価のポイント					フィードバックの方法		
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	各検査法の評価に関する知識について、筆記試験を実施する。 試験は講義で使用した教科書・配布プリント、講義において説明した内容に基づく問題を出題し、理解度を問う。 問題（解答）形式は記述・穴埋め、選択式の 100 点満点。			試験後に模範解答を提示し解説する。学生は教科書、配布プリントを参照し要点を再確認する。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						

【2023 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 作業療法学コース/作業療学科】

評価のポイント			フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点	
成果発表	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
ポートフォリオ	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
その他	①		
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
備 考			
他 担 当 教 員	榎田 哲弥、外部講師		
教員の実務経験	本科目を担当する教員は作業療法士として 20 年以上の実務経験を有している。		
実践的授業の内容	臨床における評価治療で得た知見に基づき、実際の評価バッテリーを用いて展開する。また患者の症候や状態を画像・動画などで紹介し、視覚的な学びの手法として学生の理解を促す。		
そ の 他	本科目は 2 時限連続の授業である。評価を学生同士で行うことで必要な知識・技術・態度の修得を目指すため、欠席等で迷惑のかからぬように各自体調管理等に留意すること。 本科目は対面授業を実施するため、大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は対面授業の参加を認めない。 なお、今後の新型コロナウイルス感染症の状況など、社会情勢によっては再度シラバスを変更する可能性がある。また、授業形式が遠隔授業となる場合もある。		